

8月

私の故郷であるバッファローは1962年より金沢市と姉妹都市である。金沢市の協力によりバッファローにある日本庭園で有名な兼六園のスタイルが再現されている。兼六園は日本三名園の1つに数えられるほど美しい庭園として知られている。バッファロー・金沢姉妹都市協議会代表 Dr. Takako Michii の努力により、両都市で芸術による交流が行われている。彼女のご助力により、この夏の帰省中に Burchfield Penny 美術館のホールにて伝統及び現代日本音楽のコンサートを開催することができた。

200人を収容できるこのホールの音響は素晴らしく、和楽器も西洋楽器もマイク無しで生音で聴くことができた。尺八独奏及び尺八と他楽器のデュエット、そしてフィナーレは全演奏者での合奏という構成で行った。「春の海」と泉川秀文作曲(黒船)の「風」は私の父 Ron Smith がピアノを演奏、「五木子守歌」は Dr. Ben Christy のクラリネットとのデュエット、彼のクラリネット独奏で「南部牛追分」、バッファロー出身の和太鼓奏者 Joe Small が古典と現代曲を数曲独奏し、彼のオリジナル曲に私が尺八で参加した。最後に演奏者全員で泉川秀文作曲「咲く良」のアレンジ版を演奏した。

尺八独奏は、古典本曲の「瀧落ち」と「山越」、そしてオリジナル曲の「大和のミスト」を演奏した。朝早く二上山の麓をジョギングすると、奈良の都“大和”にゆっくりと霧がかかる様子が見える。1日の始まり、そして日本の始まりを感じる風景である。コンサートでは奈良での様々な出会いと、この曲を作曲したときのインスピレーションについて語ることができた。バッファロー、金沢、そして奈良の文化が交流する興味深いコンサートになった。

もし機会があれば是非「兼六園」を訪れてほしい。奈良市にお越しの際は「依水園」と「寧楽美術館」にも立ち寄ってほしい。依水園は1670年代に作庭された静かな庭園で、都市の喧騒から逃れるには最高である。当園の借景は自然と人間の一体化をうまく表現している一例である。日本庭園は何世代にも渡り、様々な人々の共同努力によって生まれてきた。それは音楽にも通ずるのではないだろうか。芸術は特定の作者の産物ではなく、多くの人の手によって命を吹き込まれて生まれる。文化を超え、時代を超え、芸術や音楽を愛でる心を育てることはとても大切だと思う。